



技と心を鍛えて53年——
残された時間も前を向いて

金山中剣道部



左上：平成29年度最上地区中総体で男子団体初優勝時の部員 左下：週1～2回の稽古をつける前盛コーチ 右：剣道部員と顧問のお二人

今年4月に創部53年を迎える伝統ある金山中学校剣道部。現在は、男子3名・女子1名で活動しています。しかし、部員数の減少から団体での大会出場が叶わず、学校の規定により新規部員の募集が停止されることになりました。

平成18年からコーチとして生徒たちと稽古をしている元教職員の前盛知見さん（新庄市）は、昭和41年に初任地の金山中で創部に携わりました。廃部について聞くと「場所が

なく理科室から始まった剣道部。よくここまで続けてくれた」と笑顔。意外とも思える清々しい返答に続けて「剣道はどんな場面でも役に立つ。部は無くなっても鍛錬して身についたものは無くならない」と話します。

実は一昨年の平成29年、剣道部は創部初となる栄冠を手に入れました。最上地区中学校総合体育大会で、男子団体優勝を果たしたのです。これは入学とともに剣道を始める初心

者が多い金山中にとって悲願。当時、唯一の経験者であった佐藤慧さん（3年）がチームを盛り上げたそうです。前盛コーチはそのことを振り返り、「本当に快挙。今思えば有終の美だったのかもしれない」と目を細めます。

その歴史に幕を閉じようとしている金山中剣道部。着実に力をつけ、2年後の地区総体において、同級生3名で男子団体戦に出場することを目標に精進は続きます。



賞状やメダルを手にし、笑顔の井上さん

井上空さんが準優勝の快挙
中学校から剣道を始めた1・2年生が出場する「第18回フレッシュ剣道大会」が12月16日、中山町で開催され、井上空さん（下向）が準優勝を果たしました。東北各県や強豪で知られる茨城県などから約160名が出場する中、剣道歴9カ月である井上さんの表彰台は快挙です。
井上さんは「正直驚いている」と照れ笑い。「剣道に対する考え方がしっかりしていて、技の質も高い。1年生とは思えない」と前盛コーチは太鼓判を押します。ますますの活躍に期待します。